



ぐんま“まちづくり”ビジョンに基づく 富岡市アクションプログラムについて

富岡市 経済建設部 都市計画課

富岡市では平成18年に、富岡製糸場の世界遺産登録を見据えるとともに、製糸場周辺の街並みを活かした保全型のまちづくりをするための指針として「富岡市まちづくり計画」を策定しました。そしてこの「まちづくり計画」によってさまざまな施策を実行してきました。しかしその後の、富岡製糸場の世界文化遺産登録による観光客の動向や、人口減少と高齢化の進行が大きな課題となってきており、「まちづくり計画」の見直しの必要性がありました。

こうしたことから「まちづくり計画」に代わるものとして「富岡市アクションプログラム」を策定することにしました。



ワークショップメンバーの現地調査



ワークショップメンバーの様子

策定にあってはまず、市の現状を把握し問題点や課題を系統立てて認識するため、県と市の関係職員36名をメンバーとしたワークショップを開催しました。

ワークショップは平成27年7月から11月までの間に全5回行い、課題・問題点が異なると想定された「富岡製糸場を中心とするまちなか」と「妙義地域を代表とする郊外」の2地域に分け、それぞれを検討しました。この課題の検討にあたっては最初にメンバーで現地調査をして、メンバー間での地域の現状に対する認識の共有を図りました。その後、現地調査の結果や市の現状についての様々なデータを確認しつつ、これからの地域において発生すると考えられる問題点を抽出し、問題点系統図に整理しました。そしてこの問題点系統図を踏まえ機能系統図をまとめることで、地域の抱える課題・問題点を解決するためになにかが必要なのかを明確にしました。そしてその必要な機能をどのような施策で補っていけばよいのかを、アイデアとして出しました。

また富岡市アクションプログラムでは、その策定のポイントとして3つのものをあげています。それは「①「まちのまとまり」にある既存施設を活用する」、「②これまでのやり方を少しずつ変える」、「③「まちのまとまり」の価値の向上を図る」の3点です。これはアクションプログラムに盛り込まれた取組で、「新たにハコを作るのではなくできる限り既存の物を利活用し」、「行政が主体的に行うだけではなく、行政が民間の方に積極的に働きかけたり、市民が主体的な役割を担い、行政がそれをバックアップしながら実施したりする」ことで、「なにか1つだけの価値を上げるのではなく、まち全体の価値が向上するようにする」ということを体現しようとしています。

そして重点プロジェクトは、第2次富岡市総合計画の基本計画に位置付けてある「少子高齢化や人口減少への対応」と「富岡製糸場を核としたまちづくり」という2つのパッケージにまとめました。今後はこのなかに盛り込まれた事業の実施状況を毎年確認し、取組内容の変更や追加をするなどし、望ましい将来像に導くための機能を満たすことができる施策の着実な実行を目指していきます。



作成した機能系統図を発表

